

第一話 管理職としての心構え

管理職としての具体的な仕事内容は、第二話から触れていきますが、まず金型メーカー、機械加工メーカーでの管理職になるにあたり、必要となる心の持ち方を考えてみましょう。

これまでの一般職では「受け身」的に指示を受ければ済んでいたことが、管理職になると「主体的」に仕事に取り組むこととなります。

具体的には、これまで「仕事がやれる環境」を人から与えられてきましたが、これからは「効率よく仕事ができる環境」を自らが整え、部下に提供していく立場に変わることです。

わかりやすく発言する内容の事例で、その違いをみていきましょう。

シチュエーション 1

「マシニングセンターでエンドミルが折れ、一部ポケット寸法が大きくなってしまい、それを上司に相談するとき」

まず良くない発言の事例です。



次に、正しい発言の方を見てください。



もちろんまずは、自分で考えます。

しかしながら、これからは自分がその立場になるのでよくわかると思いますが、会社組織では報連相が重要で、トラブルが発生した際は、特に迅速な報告が必要になります。

上司にしてみれば、後で大ごとになる前に、まずは自分のところに報告が欲しいのです。したがって、まずはトラブルがあったことを報告し、次にその処置をどうするか考えます。